

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

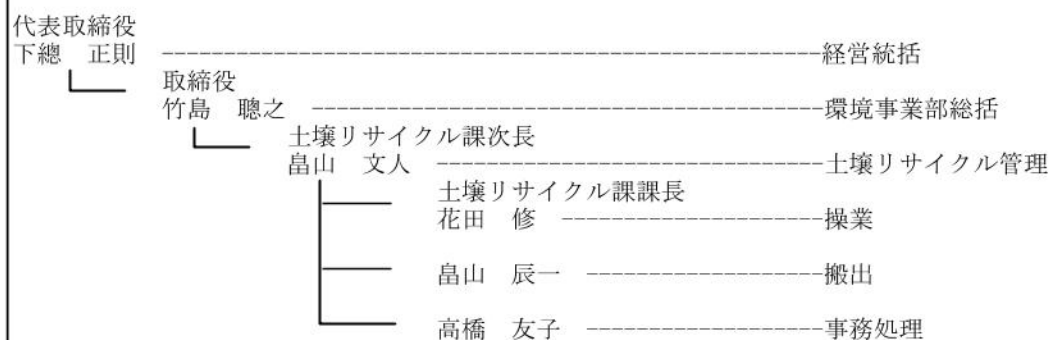
産業廃棄物処理計画書	
2020 年 6 月 11 日	
秋田県知事 殿	
提出者	
住 所 秋田県大館市花岡町字堤沢42	
氏 名 エコシステム花岡株式会社	
代表取締役 下總 正則	
電話番号 0186-46-2311	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	エコシステム花岡 株式会社
事業場の所在地	秋田県大館市花岡町字犬森山下65-1
計画期間	2020年4月1日から2021年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	8822 産業廃棄物処分業 9299 他に分類されないその他の事業サービス
② 事業の規模	売上高 1,077百万円（2019年度実績）
③ 従業員数	30人（2020年4月1日時点）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥→不溶化→運搬→埋立（最終処分） 廃プラスチック類→運搬→破碎・焼却（中間処理）→埋立（最終処分） 廃油→運搬→焼却 木くず→運搬→破碎・焼却（中間処理）→埋立（最終処分）

（日本工業規格 A列4号）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥、廃油、廃プラスチック類、金属くず、がれき類、木くず
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥、廃プラスチック類、木くず

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	1169.92 t	t
	(これまでに実施した取組) 自社処分場への処分		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	1000 t	t
	(今後実施する予定の取組) 自社処分場への処分		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項							
①現状	【前年度（2019年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	金属くず	がれき類	木くず
	排出量	1169.92 t	4.77 t	43.49 t	0.67 t	55.04 t	13.8 t
	（これまでに実施した取組） （汚泥）鉛弾リサイクル原料の入荷増に伴い発生量増となった。浚渫汚泥が発生。 （廃プラスチック類）荷姿がフレコンのものが少なかったため発生減。 （金属くず）土壌に混じった金属くずを分別したため発生 （がれき類）土壌に混じったがれきを分別したため発生。 （木くず）敷地内の伐採を行った際の伐根が発生。						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	金属くず	がれき類	木くず
	排出量	1000 t	0 t	40 t	0 t	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） （汚泥）鉛弾リサイクル原料入荷は受注次第。VOC吸着活性炭の入替は今年度は行わない。 浚渫汚泥はフィルタープレスで脱水し減量を行う。 （廃プラスチック類）入荷荷姿をバラにできるものは変える努力をする。廃棄書類は大量発生しない。 （廃油）（金属くず）（がれき類）（木くず）現状で発生予定なし。						

産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
①現状	【前年度（2019年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック類	金属くず	がれき類	木くず	
	全処理委託量	4.77 t	43.49 t	0.67 t	55.04 t	13.8 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	4.77 t	7.69 t	0.67 t	t	t	
	再生利用業者への処理委託量			t	t	13.8 t	
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	（これまでに実施した取組） 廃油や廃プラスチック類、金属くずはグループ会社での中間処理。						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック類	金属くず	がれき類	木くず	
	全処理委託量	0 t	40 t	0 t	0 t	0 t	
	優良認定処理業者への処理委託量		10 t				
	再生利用業者への処理委託量						
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	（今後実施する予定の取組） 上記取り組みの継続 その他の項目が発生した場合、適宜処理するものとする。						

※事務処理欄	
--------	--